

1. 地域農業の状況

○ 愛知県岡崎市は、愛知県中央部三河高原の西端に位置している。

宮崎地区は、山林と保安林が9割を占め、江戸時代に造成された石垣（猪垣）が残存している農村集落である。

地区内の農地のうち、荒廃農地約10.6ha、65歳以上の農業者の耕作面積約36.7ha、地区内において今後中心経営体が引き受ける意向のある耕作面積は約12haであり、将来の農用地保全が懸念される地区である。

○ 現状の作付け品目・面積は、水稻約16ha、その他野菜・茶・樹園地約25ha。

従来から獣害防止柵を整備して対策を講じているものの、サル、ニホンジカ、イノシシによる獣害が発生しており、農業意欲の低下の要因の一つになっているため、根本的な解決に向けた鳥獣害対策への取組や鳥獣被害を受けにくい作物への転換及び低コストでの農用地保全に取り組む必要がある。

○ このような中、都市と農村の交流の促進を図り、農用地保全に必要な地域ぐるみの話し合いによる最適な土地利用構想の策定、低コストで農地を維持・管理するため、鳥獣被害防止対策、粗放的な土地利用の仕組みを構築しつつ、地区の管理主体の明確化を図り、農地の持続的な保全に取り組む。



2. 地区概要

取組主体	ミヤザキフィールドクラブ	地区名	宮崎地区 <small>みやざき</small>
再生面積	0.5 ha	取組年次	令和5年12月～
作付作物	茶、果樹	販路	ネット販売、直売所等に出荷

3. 取組内容及び効果

農山漁村振興交付金(最適土地利用総合対策)を活用して、荒廃農地を再生

- 農地について地域ぐるみの話し合いを実施し、土地利用の概略構想を整理。
- 荒廃農地で新品種の茶を栽培し、紅茶へ加工して販売予定。また、荒廃農地で粗放利用可能な作物について生育確認を行い、有効なものを選定。
- ゆず畑に竹加工品を散布し、抑草実証実験を行った上で農地の再生を行い、農地維持に関して省力化の検証を行った。

荒廃農地における栽培実証試験（茶）



事業実施前



整備後

抑草実証試験（ゆず）



活用した
支援策

R5～R6 農山漁村振興交付金(最適土地利用総合対策)(国)